

もったいない! 未来のために
母の視点で **よりも** で見直し
次世代に借金、リスクを残さない

県議会議員

西村久子 県政報告

第49号

発行 西村久子

彦根市甲崎町
TEL・FAX 43-4700

Eメール hisako@country-farm.net
ブログ http://nishimura-hisako.net/



今日 **よりも** 明日

4月、新しい年度の始まりです。入学、就職、人生の刻みが一人ひとり未知の世界に夢を広げます。焦らずコツコツ夢を追い努力を続けたいですね。きっと結果に結びつくことを信じて・・・。

2月県議会最終日、県議会議員定数削減が決まりました。現在47人を次の県議会議員選挙より、44人に減ずることとなりました。現在13市6町ありますが、町のところを近隣の市と合区にして、定数がその管内で減ることとなります。この管内では彦根市と犬上郡の3町を合区とし、合わせて4人の議員に替ります。(現在は5人です。)

多賀町、甲良町、豊郷町の皆さんと同じ活動区域になりますので、今後の県政報告を彦根市と犬上郡の皆さんに新聞折り込みすることとしました。

私は、旧稲枝町出身で、農業を基盤に生活改善グループの活動を通じて仲良くご指導をいただいております。懐かしいお顔が浮かびます。男女共同参画社会の訪れに後押しいただき、彦根市議会に3期12年、今、県議会8年目を迎えています。農村が基盤でしたから、水害に悩む現実や、子を持つ家庭の主婦として、介護や子育て、また、幸せな家庭の集まりが幸せな地域を作るとの思いから、暮らしの声を届けてきました。残る任期を精いっぱい努力します。どうぞご指導いただきますよう、お願いいたします。



H26年2月定例会一般質問

医療の満足度を高めることについて(知事)

日本人の平均寿命は世界一。2013年の統計では男79.59才、女86.36才であり、その日本の中でも、滋賀県の男性は長野県に次いで全国第2位80.58才と素晴らしく長命であります。女性においても、全国12位86.69才と男女ともに平均を上回っています。

しかし、意外にも健康寿命が、特に女性において全国最下位の73.62才、そして男性は70.42才と数値が出ており、女性において全国1位の静岡県とでは約3年の開きがあることは問題であります。

男性で平均寿命までの約9年、女性では約12年、何らかのお世話になりながら暮らしていくこととなります。健康寿命を上げないことには、医療・介護の課題が大きくなるのしかかってまいります。

以前、これに関し取りあげましたが、今回は、そのどこよりも長く、いわゆる医療や介護を受けている我々県民が、不自由な体を抱えながらも満足して暮らしていくかについて、考えてみたいと思います。

体のあちこちがああだ、こうだと言いながら、日本一長期間暮らしていけるということは、滋賀県は、どこよりも医療が進んでいる…といえるのではないかと、思うのです。もちろん、世界から見た日本の医療も、その平均寿命が最高であれば、医療の施設も技術も機材も日本国中に充実していると考えられると思うのです。

しかし、データとして、国民の医療に対する満足度は、残念ながら世界で最低ランクであると仄聞しています。素晴らしい診断機材を各病院に配置し、精密な診断によって高度な治療が施されているにもかかわらず、医師や病院に対する不満はよく聞かれます。

「診たてが違った。もっと早くに適正な治療ができていれば…」とか、「ずっと開業医さんにかかっていたのに、手遅れになってしまった。」と、お医者様に対する不満が多いのです。

「ああこうだと訴えても、パソコンに向かってばかりで、患者である自分の体を診るよりもパソコンで病気診断をしてもらっているようなもの…」という声を聴きます。

昨年、がん患者の会講演会で、あるがん患者さんが、先生に「あれもこれも聞きたい…」と思うことはあっても、とても忙しいので時間をとっていただくことに遠慮してしまう…と。

反面、お医者様からは、「状態を知りたいのは患者ご本人からであり、しっかりと状況を話してほしい・・・」と話され、当たり前前のことが重大ごとのように受け取れました。患者力を上げるということはとても大切と聞きまして、そのためにもお医者様とのコミュニケーションは何よりも重要であると感じました。

患者の不満の多くは、「信頼するお医者様に、しっかり自分の方を向いて話してほしい、診てほしい」の思いであり、・・・「先生がこんなにも私に真剣に向きあってくださる」・・・に尽きるのではないかと、思えるのです。

医師確保対策についてであります。県ではこれまで重点施策の一つとしていろいろ取り組んでこられました。まだ医師の不足している医療機関が多くあります。よい施設を有しているにもかかわらず、診療科を閉ざしている病院もあると聞いており、より一層の取り組みを進めていただきたいと思います。

一方、昼夜に亘り従事しなければいけない医療機関であれば、医者に敬遠されることになり、そのような医療機関において数少ない医者を新たに求めることは、より一層困難になるでしょう。24時間飛び続けた飛行パイロットが、さらにそのまま操縦桿を握る現実は避けなければなりません。

また、診察を求める患者に見合う医師が足りない現状において、より一層効率的な診断と、患者に向き合う時間を増やしていただくためには、前段紹介した、「お医者さんは、パソコンばかり見て、…」の不満をヒントにして、電子カルテの事務処理については、パソコン技術に長けた若い世代など専門に行う人材に任せてはどうかと考えます。



裏面に続く

これにより、経営の厳しい医療機関にあっては、さらに人件費を増すことになってしまいますが、県と市町、全県的な対応がいただけると、セカンドオピニオンとしてあちこち診察の門を叩くにしても、より効率的になり、医師が多くのお客様に接することができ、患者の満足度の向上につながると思います。

これは、今後、超高齢社会を迎える中、在宅医療に際していただく医師を応援するという意味においても、力になると思うのです。何より、相手にしっかり向き合える時間が持てることは、些細なことであっても大切なことだと思います。また、若い世代に新しい職種を開くことにもつながるのではないかと考えます。

そこで、県では、このような医師の負担を軽減するためにどのような取り組みを行ってきたのか、また、今後どのような支援を考えているか、知事に伺います。

答 まず、医療は、患者と医師の信頼関係により成り立つものでありまして、ご指摘のとおり、患者さんの満足のためには、診察時に医師が患者さんに向き合う時間が大変重要です。

そのため、医師の負担を軽減するためには、診療報酬で医療事務補助職員の配置についての加算制度がございます。県においても独自に平成22年度から地域医療再生事業において、宿日直代替医師の雇用、外来担当医師増員のための非常勤医師の雇用など、勤務環境改善に対する取り組みを支援してまいりました。

また、今後の対策としては、医療法改正に伴い、本年秋までには、仮称ですが、医療勤務環境改善支援センターを設置してまいります。

このセンターでは、医療機関が自主的に作成する勤務環境改善計画の実現に向け、専門的知識を有するアドバイザーが支援し、労務管理面だけでなく、経営面も含めた対策を推進してまいります。

併せて、県は、センターの運営にあたっては、労働局、医療関係団体とともに、運営協議会を設置し、県内医療機関の勤務環境改善が推進されるよう努めて参ります。と同時に、今、大きく医師と患者の関係が変わりつつあるということも認識しなければならぬと考えております。県の方では、重点施策の3点目に在宅看取りの仕組みを入れておりますけれども、人生50年の時代、お医者さんは命を救ってくれるという存在でもありました。しかし、人生80年、90年、どちらかというといふと老いと向かうという意味では、医師だけでなく、介護、看護、あるいはリハビリテーションなど含めて、家庭医、かかりつけ医の役割も重要になってきていると思います。そのような超高齢化社会での医師と患者のあり方というのは、社会全体で考えなければいけない時代になっていると理解をしております。

予算特別委員会質問より

**「みずかがみ」産地化
スタートダッシュ事業について**

高温に強く、とてもおいしい新品種「みずかがみ」が、約10年の歳月をかけて農業技術振興センターで育成され、昨年から本格的に作付開始されました。

大変暑い夏であったにもかかわらず、その品質は乳白など高温による影響はほとんどなく、1等比率87.9%と高く、食味についても日本穀物検定協会において、本県では初めて特Aに評価されるという良い結果であったと聞いています。育種にご苦労いただいたみなさんに感謝いたします。新しい品種のため、初めて作付される農家がほとんどです。作付にあたって注意すべきことなど「みずかがみ」の特徴はどのようなものかお伺いします。

答 暑さに強く、夏の高温による白未熟粒等が、ほとんど発生しません。本県主力品種コシヒカリと比較すると、食味は同等以上、収穫時期が数日早い、草丈短く、倒れにくく、作りやすい、収量は同等である等です。

一方、生育の後期に肥料をやりすぎるとコメのタンパク含量が増加し、食味が低下しやすいという特徴もあり、肥料の管理など栽培上の注意が必要です。



次に、そのような「みずかがみ」の特徴をふまえて、どのような技術対策が必要かお聞きします。

答 おいしいみずかがみを生産するには、生育後期の肥料を控える必要があります。特に前作に大豆を栽培した圃場に「みずかがみ」を作付する場合は、肥料を通常の半分くらいにすることが必要。また、他の品種より出穂が速いため、カメムシの防除や収穫遅れをしないことが必要です。

コメの品種によっては気象条件や土壌条件によって栽培に不適の地域があると思いますが、この「みずかがみ」は、どのような地域や生産農家を対象に作付を進めようとしておられるのか、お尋ねします。

答 「みずかがみ」は県内全域で栽培に適する品種であり、地域を限定せず栽培を推進していますが、市場評価を得るには、品質のそろったものを流通させる必要があります。このため、県が示す栽培基準に沿った栽培や環境こだわり栽培をすること等を要件として、これらに賛同していただける方を対象に推進しています。平成26年産は1,000ha、平成27年は2,000haまで増やしたいと考えています。

品質が良くおいしい「みずかがみ」を広げていくためには、その特徴をふまえた取り組みがしっかりと行われる必要があると考えます。生産場面において、どのような取り組みを行おうとされているのかお尋ねします。

答 品質のそろった「みずかがみ」を生産できるよう、JA等が行う栽培の基準となる圃場の設置や、栽培技術研修会の開催等の経費、作付拡大に必要な優良種子を確保の経費への助成460万円を計上しています。

この品種はまだ、今年から県内に向けて売り出されたばかりで、本当に売れるものなのか、売りやすいものなのか未知数です。今後、農家が作付けしたい、作付を増やしたいと本気で考える品種になるためには、売りやすい品種であることが必要と考えます。販路拡大のためのPR対策にどのように取り組まれようとしておられるのかお伺いします。

答 来年度からの県外デビューに合わせた関西圏でのテレビCMや、店頭での試食販売キャンペーンの実施など、「みずかがみ」の知名度向上を図るべく、経費として3,200万円計上しています。また、市場への存在感を示すために、統一パッケージによる流通を進めていますが、これに必要な精米袋の作成に対する補助金として500万円を計上しています。これらを含め「みずかがみ」流通販売推進費として、合計3,794万3千円を計上し、販路拡大のためのPRに努めたいと考えています。

